

(様式2)

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年 3月 25日  
札幌市立 稲積 中学校

## 1 基本方針

- 1 生徒が自ら学ぶ力を育てるため、一人一人を大切にしたい、個に応じた教育の推進に努める。
- 2 心の教育を大切にしたい、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を支える力のバランスのとれた育みに努める。
- 3 教育課程を適正に実施し、部・学年・学級・教科経営の充実に努め、特別委員会の適切な運用を図る。
- 4 保護者や地域住民の意見を反映した学校評価による学校運営の工夫や改善に努める。

## 2 学校経営の重点

- ・人間尊重の教育の推進
- ・「学ぶ力」育成に向けた教育の推進
- ・特別な配慮を必要とする子どもへの教育の推進
- ・安全教育・防災教育の推進
- ・家庭・地域に信頼される教育活動の推進

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教育課程	学習指導要領に基づいた調和のとれた教育課程を編成・実施している。	A	・5教科の二期制完全実施に伴い、余裕を持った教育課程を実現することができた反面、生徒や保護者へのフィードバックの機会を今後は検討する必要がある。 ・次年度も継続して「課題探求的な学習」を取り入れた授業構築を目指して校内研修を深めていく。	A	A
	「札幌らしい特色ある学校教育」(雪・環境・読書)に取り組んでいる。	B	・スキー学習について、今年度から学年単位で実施し、バスの台数を減らして価格高騰に対応しながら今年度も実施することができた。 ・PTA主催の雪かきボランティア、エコライフレポートの取組の他、今後は文化委員会を中心とした読書推進運動のさらなる充実に努める。	A	A
学校関係者評価者による意見		雪に親しむ学習では、スキー学習を行うことについての意味や価値について今一度見つけ直し、小中つながりのある充実した学習になるように実施してほしい。			
学習指導	自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する「課題探求的な学習」を取り入れた授業の工夫を行っている。	A	・校内研修会で方向性を定め、年間を通じた研究授業を今後も継続する。全ての教科においてAARサイクルの視点に沿って授業改善に取り組む。 ・札幌市立事業における小中連携での事業参加や、各教科のフォローアップ研修などに積極的に参加し、学びを深める。	A	A
	基礎・基本の確実な定着を図っている。	A	・TTや学びのサポーター制度を活用しながら、少人数による個に応じたきめ細かな指導を充実させ、分かる・できる喜びを実感させていく。	A	A

	適切な評価基準を設定し効果的な教科指導と妥当で信頼性の高い評価に努めている。	A	・校内研修で評価の在り方について、より一層の研修を行い、各教科の足並みをそろえ「指導と評価の一体化」に努める。	A	A
学校関係者評価者による意見		AAR サイクルの視点に沿っての授業改善、評価の在り方についてなど、積極的に研修を進め、継続して指導の充実に努めてほしい。			
分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒支援	信頼関係に基づいた、一人一人の良い面を伸ばす指導を行っている。	A	・様々な教育活動で、傾聴の姿勢をもって関わり、対話を重ねて、合意形成を図ることを意識する。	A	A
	生徒が安心して生活できる学級づくりに努めている。	A	・生徒一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるよう、常に生徒に寄り添いながら、細かなサインを見逃さず、励まし、支える関わりを大切にする。	A	A
	相談活動を基盤とした共感的な生徒支援に努めている。	A	・心の健康観察アプリ「シャボテンログ」や一言日記「毎日の記録」などを積極的に活用し、生徒からのシグナルを見逃さず、生徒理解、生徒支援に努める。	A	A
	様々な困り感を抱えた生徒に対する、丁寧な対応と支援を工夫して行っている。	A	・校内学びの支援委員会を機能させ、特別支援コーディネータを中心に、個々の生徒の状況によって、心の教室や外部機関と連携を図る。	A	A
	いじめについては、いじめ防止基本方針に基づいて組織で判断・対応している。	A	・生徒や保護者からの訴えの有無にかかわらず、必要に応じていじめ防止対策委員会を立ち上げ、組織的に対応することができた。今後もいじめが有る無しに関わらず、SC、SSWとも連携しながら、いじめの未然防止、早期対応に努める。	A	A
学校関係者評価者による意見		生徒からの学校評価アンケート結果からもわかるように、先生方への信頼感が高いことが見て取れる。生徒に寄り添い、一人一人の声を大切にしながら生徒支援ができていくことが素晴らしい。今後も継続してほしい。			
豊かな心	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるよう学校づくりに努めている。	A	・教職員自らが人間尊重の意識の向上を常に念頭に置き、子どもの伸びを認め、意欲を高める前向きな声かけを心掛ける。 ・生徒会を中心に自治的な活動を進め、生徒主体の活動を通して、子どもの声を「聴く」「応える」ことを大切にしていく。	A	A
	他者を思いやる心の育成に努めている。	A	・主に生徒会の取組において、生徒の“つながりをつくる”“発信する”“伝える場をみんなで意識する”事を「INA=SHARE」などの行事や企画で具現化することができた。 ・心を育てる視点を常にもち、保護者との連携を大切にしながら生徒への支援に努める。	A	A
	積極的なあいさつができるように働きかけている。	A	・教師が率先垂範し「さわやかな挨拶」を実践することから、子どもたちの心を育てる。 ・生活委員会が中心となった「挨拶運動」「ポスターによる啓発」など、生活委員会を中心に実践することができた。	A	A

たくましい心身	心身ともに健康で、望ましい生活習慣を身に付けるよう働きかけている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に昼休みに、格技室を活用した卓球等の活動の企画や、様々な用具を使っのグラウンド開放など、運動の機会を創出することができた。</li> <li>・市教委と連携してダンスチームを招待し、授業や昼休みなどを活用して体を動かすことの楽しさを伝えることができた。</li> <li>・年間を通じたシャトルラン（通常）12分間走（6組）を継続する。</li> </ul>	A	A
健全な社会性	行事等で仲間と協力して取り組めるように働きかけている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校祭や合唱発表会等「本物の活動」を通して、生徒が互いの良さや可能性を認め合える人間関係づくりに努めた。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価者による意見	生徒会を中心に、行事や昼休みの交流活動などで、たくましい体と健全な社会性を育てる場面が意図的・計画的に行うことができている。学校の良い文化として継続して取り組んでほしい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
情報教育	ICT機器の適切な取り扱いや情報モラル教育に積極的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も地域や関係機関と連携した情報モラル教育の推進に積極的に取り組む。</li> <li>・ICT係が中心となり、活用事例を発信したり、研修の機会を設定し、学校全体の情報教育の充実につなげる。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価者による意見	プログラミン教育も含め、ICT教育に求められる内容はより複雑で多岐にわたっている。情報モラル教育も含め、よりよい指導ができるよう、今後も継続して研究を深めてほしい。				
防災教育	避難訓練等の取組の工夫および防災教育に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自ら適切な判断のもと、主体的に行動できるよう、生徒の実態に照らし合わせた予告なしの避難訓練を実施する事ができた。</li> <li>・地震等緊急速報やJアラート時など、緊急事態発生時の教職員の組織的な対応方法について再確認が必要である。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価者による意見	日々の防災教育が緊急の場面で命を守る行動に大きくつながる。今後も生徒や教職員が自発的に行動ができるよう、継続して防災教育に取り組んでほしい。				
特別支援教育	障がいのある生徒や特別な支援が必要な生徒が積極的に学べる教育環境を整備している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内学びの支援委員会が中心となって、特別な配慮が必要な生徒に対する対応等についての研修を深める。</li> <li>・特別支援コーディネータを中心に、担任、相談支援パートナーや学びのサポーターとの連携を積極的に行い、心の教室を運営する。</li> </ul>	A	A
	行事や日常の活動場面を通じて特別支援学級との連携を進めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行的行事、スポーツフェス、稲積ふれあい活動等の活動を通じて、インクルーシブを重視した連携を進め、交流及び共同学習を継続して推進する。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価者による意見	学級や学年にかかわらず、生徒一人一人が互いに尊重し合い、交流活動や共同学習を行うことのできる環境作りを今後も進めてほしい。				

環境作り	清掃活動や校内美化活動を通して、清潔で潤いのある環境づくりに努めている。	A	・日常の清掃活動を継続する。清掃強化日週間については、より生徒が主体的に取り組めるよう、委員会活動の取組を充実させる。	A	A
学校関係者評価者による意見	生徒主体の自治的活動を学校の文化として引き継げるよう、継続して委員会活動の充実を進めていってほしい。				
家庭地域	生徒、保護者、地域に向けて積極的に情報を発信している。	A	・HPの整備を進め、本校教育活動の最新情報を積極的に発信していく。 ・すぐーを積極的に活用し、必要な情報が保護者に確実に伝わるように発信する。 ・学校だよりは紙媒体と共にHPに掲載して情報発信を行う。	A	A
	学校・家庭・地域が一体となった義務教育9年間を見通した子どもの育成に向け、工夫をした取組をしている。	A	・稲積中学校区小中一貫した教育の取組では、パートナー部会で上がった要望と次年度実施校である稲積中の声を反映して計画を策定する。 ・9年間のつながりある教育の実現に向け、持続可能なコミュニティースクールの導入を進める。	A	A
学校関係者評価者による意見	小学校の中学校見学や合唱発表会の見学など、小中の接続を考えて積極的な交流ができている。また、さっぽろっ子サミットなどで児童会、生徒会との結びつきもあった。生徒達は、稲積ふるさと祭りなどの地域の催しにもよく参加している。今後も小学校・中学校・地域とのつながりを更に深めていけることを期待している。				